

## 令和4年度 第1回 三島市高齢者保健福祉及び介護保険運営懇話会会議録

### 1 開催日時

令和4年8月10日（水） ※ 書面にて開催

### 2 開催場所

書面開催のためなし

### 3 懇話会委員

吉富委員（座長） 三宅委員（副座長） 近藤委員（副座長） 川原委員 宮下委員  
榎澤委員 小島委員 荻野委員 鈴木委員 堀内委員 佐野委員 宮本委員 山田委員  
内田委員 三沢委員 碓井委員 今野委員 原田委員 斉藤委員 村瀬委員 青田委員  
小川委員 高橋委員 杉山委員 中神委員

### 4 会議の公開・非公開

公開

### 5 傍聴人

0人

### 6 議題

- (1) 第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画の概要について
- (2) 令和3年度事業状況について  
（高齢者の生きがいつくりの推進、健康づくりと介護予防の充実、包括的支援の推進、  
認知症施策の総合的な推進、地域を支える体制の整備、介護保険事業費）
- (3) 令和4年度高齢者実態調査について  
調査の目的、調査の概要、国・県・市の役割分担、調査内容、スケジュール（予定）
- (4) 大規模修繕の際に併せて行う介護ロボット・ICT導入事業について  
グループホームみのもりで「介護サービス提供体制整備促進事業費補助金」を活用し、施設  
の大規模修繕にあわせ導入

<意見及び回答>

(該当資料・項目)

協議事項(1)資料 第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画について

施策3 包括的支援の推進 (1) 相談・支援体制の強化 P11

(意見等)

地域包括支援センターでの総合相談数は、年々増加している状況のようです。包括支援センターの業務としては総合相談以外にも多々あり、このまま増加するようでは対応が難しくなると思われます。現在、市内に5か所設置されていますが、今後増設または配置職員の増員等の考えはあるのでしょうか。

(回答)

令和元年10月に日常生活圏域を再編し地域包括支援センターを4か所から5か所に増設しました。後期高齢者の人口の伸び率から試算して、相談件数は今後もしばらくは増えていくものと見込まれるため、令和6年度から3年間を計画期間とする第9期三島市介護保険事業計画策定の際には、地域包括支援センターの増設を含めた相談体制のあり方について協議、検討していきたい。

(該当資料・項目)

協議事項(1)資料 第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画について

施策3 包括的支援の推進 (2)在宅医療・介護の連携推進 P11

(意見等)

ACPの推進はどの様に進める計画でしょうか。

(回答)

・市民への普及啓発として、看取りを経験された方の協力のもと在宅での看取り、ACPに関する広報特集の掲載を令和3年度実施しました。令和4年度は看取りガイドとともに先の特集記事をリーフレットにし、自治会連合会総会、民生委員総会、役員会、保健委員会地区会議、出前講座等の機会周知を進めています。また若年者への周知として、市内7中学校で医師による医療講座を令和3年度までの3年間に開催しました。令和4年度は2巡目に入り、中学校2か所で講座開催を予定しています。

・医療従事者への周知としては、医療介護連携センター周知のため、在宅医療コーディネーター医療機関を訪問する際に合わせて看取りガイドの周知を行っています。

・在宅医療介護連携推進会議の下に設置された入退院支援検討部会において、令和4年度は退院支援について課題検討を行う計画ではありますが、退院時等支援の節目においてACPについて周知する機会と捉えてもらえるよう、働きかけていきたい。

(該当資料・項目)

協議事項(1)資料 第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画について

施設整備の進捗について P16

**(意見等)**

令和3年度施設整備の進捗について教えてください。

**(回答)**

第8期介護保険事業計画におきましては、認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の合築施設を南二日町に、地域密着型特定施設入居者生活介護施設を壱町田にそれぞれ整備を予定しています。

南二日町の合築施設については、7月に建設工事の入札を実施し着工済となっています。壱町田の施設は、既存建物入居者の転居の調整が済み次第、工事着手となる見込みです。

**(該当資料・項目)**

**協議事項(1)資料 第9次高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画について  
第1号被保険者の保険料 P18**

**(意見等)**

第5段階が基準額と思われ、年額58,000円です。三島市としては、今後の保険料の変化と、どのぐらいが上限とお考えでしょうか。

**(回答)**

三島市の介護保険料の基準額は、ご指摘のとおり年額58,000円となっております。介護を必要とする高齢者の増加に伴う介護サービス需要への対応、必要とされる介護サービス施設の拡充に加え、慢性的な介護職員不足対策としての処遇改善や昨今の物価高騰など、介護サービス事業所の運営コストの上昇など、令和6年度からの3か年の介護保険料の検討にあたっての課題は山積しております。今後、国から介護報酬改定等の方針が示されますが、サービス利用にあたっての自己負担の在り方の検討の方向性も併せて、その内容を注視しつつ、現状、県内最低水準を維持している三島市の介護保険料についての見直しを検討してまいります。

**(該当資料・項目)**

**協議事項(2)資料 令和3年度事業状況について  
P3～P16**

**(意見等)**

コロナ禍以外の理由による計画値未達事業はありますか。

**(回答)**

コロナ禍以外の理由による計画値未達事業は次のとおりです。

- ・4頁 高齢者のスポーツ及びレクリエーションの推進 (スポーツ教室：教室数)

計画値は65歳以上の方が参加できる教室数、実績値は65歳以上が参加していた教室数でカウントしていたため。

- ・14頁 地域自立生活支援事業 (給食サービス事業：年間配食数)

施設入所等による廃止や病院への入院による休止により利用人数が減少したため、配食数も減少しております。

<p>(該当資料・項目)</p> <p>協議事項(2)資料 令和3年度事業状況について</p> <p>2 健康づくりと介護予防の充実 (2) 介護予防事業の推進</p> <p>① 介護予防・生活支援サービス事業 P8</p>
<p>(意見等)</p> <p>訪問型サービスB利用増加の理由及び担い手の育成状況を教えてください。</p>
<p>(回答)</p> <p>訪問型サービスBには、芙蓉台自治会の補助によるサービスとシルバー人材センターの委託の2種類のサービスがあります。芙蓉台自治会は令和3年1月からサービス提供を開始しており、令和3年度は年間を通して実施可能となったこと、また、シルバー人材センターのサービスはケアプランを作成する地域包括支援センターにサービスの再周知をした結果、利用に結びつく対象者が増えました。</p> <p>担い手育成は、事業者や自治会などの団体から申し出があった際に、個別に実施しています。令和2年度は1事業所から申し込みがあり養成講座を実施、令和3年度は芙蓉台自治会のサービスに興味を持った自治会に養成講座の説明を行い、今後、依頼に基づき実施していく予定です。</p>
<p>(該当資料・項目)</p> <p>協議事項(2)資料 令和3年度事業状況について</p> <p>3 包括的支援の推進 (1) 相談・支援体制の強化</p> <p>①包括的支援事業 P11</p>
<p>(意見等)</p> <p>高齢者くらし相談事業「街中ほっとサロン」の利用増加理由は何でしょうか？</p>
<p>(意見等)</p> <p>高齢者くらし相談事業「街中ほっとサロン」コロナ禍に伴う行動自粛・制限等があるなかで来所者数が大幅に増加している要因は何でしょうか？</p>
<p>(回答)</p> <p>大きな要因として、令和3年2月に閉館した健幸塾に設置してあった、みしまタニタ健幸くらすの体組成計とリーダーライターが同年3月から街中ほっとサロンに設置され立ち寄りの方が増加しました。その利用者の多くが、高齢者のため、職員が声掛けを行うことで、さらに街中ほっとサロンの活用が進みました。その他、展示スペースをシニアクラブが活用することで、作品鑑賞に会員の方々が立ち寄るようになったことも一つの要因です。</p>
<p>(該当資料・項目)</p> <p>協議事項(2)資料 令和3年度事業状況について</p> <p>介護保険サービス量等の見込みと保険料</p> <p>1 介護保険事業費 (1) 介護予防サービス給付費 (2)介護サービス給付費 P17, 18</p>

**(意見等)**

前年度との比較において、令和3年度は介護予防/介護共にそれぞれのサービスで増減を認めるが、新型コロナウイルスの影響による特徴的な変化があったのであれば教えていただきたい。

**(回答)**

全体的な傾向としては、不特定多数の方と接することによる感染の不安から通所系サービスの利用減、または、伸びの鈍化がみられた一方で、訪問系サービスの利用や、福祉用具貸与、住宅改修等が増加しました。これは、コロナ禍の長期化により、在宅での介護を選択するケースが増加したことが一因と考えられます。

**(該当資料・項目)**

**協議事項(3)資料 令和4年度高齢者実態調査について**

**(意見等)**

独自の調査項目について教えて下さい。

**(回答)**

現時点では、市独自の調査項目は決定しておりません。県下共通の調査票が10月上旬に提示される予定ですので、県の調査項目確認後に検討し決定する予定です。

**(回答)**

地域での共助は大切であり重要だと認識しております。県下共通の調査票が10月上旬に提示される予定ですので、県の調査項目確認後に不足している部分の補完設問も検討したいと思っております。

**(該当資料・項目)**

**協議事項(4)資料 介護ロボット・ICT導入事業について**

**(意見等)**

介護ロボット導入事業についての説明をお願いします。

**(回答)**

本事業は、施設の照明設備のLED化等の大規模修繕にあわせて、各ベッドに、非接触型センサーにより入居者の呼吸や心拍などを測定し、睡眠状態を把握する見守り支援システム「眠りSCAN」を設置したものです。

・グループホームみのり 見守りセンター18床分

整備費 3,355,000円 (介護サービス提供体制整備促進事業費補助金)

**(意見等)**

- ①介護職員の提供するケアの“効率的”になったという具体例を説明頂きたい。
- ②介護従事者の負担軽減の定量的具体的例を説明頂きたい。
- ③介護ロボット・ICT導入の費用体効果と課題について説明頂きたい。

### (回答)

- ① 導入前は、定期巡回や突発的に起こる事柄での対応でしたが、センサーデータに若干のタイムラグはあるものの入所者の状態に応じた訪室や支援が可能となり、覚醒時におけるある程度の的確な訪室が行えるようになったとのことでした。
- ② 入居者の睡眠状態をデータ把握することが可能となったことで、夜勤従事者の精神的・心理的な負担が軽減されたとの報告を受けております。今後、機器活用の経験値が蓄積されれば、より負担軽減効果は出てくるものと考えます。
- ③ 現状では、介護ロボット、ICT活用による、画期的な省力化、効率化にまでは至っておらず、試行錯誤の段階にあります。今後、データに基づいた介護の手法の確立と職員の負担軽減の効果を生み出すためには、蓄積されたデータの活用に関する事業所の職員間、事業者間での情報共有化等が課題になると考えております。

### 【その他】

第9次計画・第8期計画という長きに渡り推進してきた事業状況は素晴らしいものでした。しかし、今後、高齢化率は上がり、認知症高齢者が増え、高齢者単身世帯が増えていくデータを見て、今後が不安になったことも事実でした。令和3年度の事業状況の中でも、まだまだ行わなければならない多くの問題点があげられました。

今後の地域力を強化するための人員確保の方法、予算の捻出の具体的方法がわかりませんでした。保険料の増額でしょうか？「他人事」ではなく「我が事」と考える地域づくりを謳っていますが「自分たちの事」をするだけで手一杯の状況から10年後にどのように「他人を見る余裕」を作り出す計画でしょうか。

この質問が大変困難な問題であることは理解しています。ただし、将来的に子供たちの借金をふやすような財政に頼らず、人口減少に伴う高齢化率をこのままにするのであれば推進や充実だけでなくスリム化を正直に伝えなければならないのではないのでしょうか。これまでのご苦労には経緯を感じています。この核となる計画が可能と考えるならば、各課の横断的協力により、計画通り推進できることを願って意見とさせていただきました。

### 回答

介護を必要とする高齢者の増加に伴う介護サービス需要への対応が必要な一方で、介護職員の処遇改善の必要性や諸物価の高騰などにより介護サービス事業所の運営コストも上昇しております。現在、介護給付費の50%を占める税負担の負担割合をこれ以上増やすことは困難でありますので、ご指摘のとおり、介護保険料やサービス利用にあたっての自己負担の在り方の検討とともに、真に必要なサービス、効果的なサービス提供に向けた適正化の検討は必要であると考えております。

また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施をすることで健康寿命の延伸に取り組めます。